

ふたばランド保育園で働き始めたとき、私は保育士資格を持っておらず、非常勤職員として勤務していました(今は有資格)。勤務時間は朝6時半から。朝は玄関や園庭の掃除から始まります。誰もいない静かな園舎の前を掃除をしていると、一人、二人、と少しずつ子どもたちが登園してきます。登園する人数が増えてくると、それに伴い子どもたちの声も園庭に届いてきます。その声はどんどん増えてきて、気付くといつも保育園の様子。空っぽの保育園に子どもたちの声が溢れていく様子は、まるで空っぽの宝箱にキラキラした宝物が増えてくるようでした。現在も早朝出勤のときは掃除をしながら同じことを思っています。

今月の予定

牛久市幼児教育指導員の先生方による「おはなし会」 9/1(木) 今回も宮本先生と栗山先生に絵本や紙芝居の読み聞かせをしていただきます。イメージを膨らませながら子どもたちは喜んでます!

リトミック 9/5(月) 中島先生からリトミックのご指導をいただきます。音を聞いて動くのはもちろんのこと、立ち姿やキレイな姿勢の維持など生活にもリトミックが活かされています。

カレーライスの日 9/7(水) 自分の役割に責任を持って子どもたちは取り組んでいます。特に4・5歳児のご家庭は、お子さんの持ち物・時間に対する意識を一緒に大切にしてくださいね。

こども夏祭り 9/8(木)、9(金) 職員と子どもたちでお祭りを楽しんでいこうと思います。みんなでたっぷり楽しむ為に二日間設定しております。ご家庭向け配信用の動画撮影も予定しておりますので、ご承知おきください。

交通安全教室 9/16(金) 今回は「飛び出しはしない」をテーマに教えてください。大型紙芝居など毎回色々工夫をした、手作りの教材を持ってきてくださっており、子どもたちも興味津々です。

おべんとうデー 9/21(水) 子どもたちにとって、すごく大切な日!大切なお弁当は、おかずは加熱して、しっかり冷やしてからお持ちください。

ぞうグループ お泊まり保育 9/22(木)～23(金・秋分の日) ぞうグループのみんな、お待たせしました!基本的には以前に配布した手紙の通りですが、持ち物に若干の変更がありますので、後日配布いたします。

誕生会 9/29(木) 9月生まれのお友だちの誕生会ですよ〜!年長児がエスコートしてくれるのを、誕生児のみんなも楽しみにしています。

お知らせ・お願い

★9/1は防災の日! 1923年に関東大震災が起きたことにちなみ、この日の給食はアルファ米とレトルトカレーとなります。(アルファ米…水やお湯を加えると炊きたてのようなご飯になります。園では非常用に備蓄しています。)

★敬老の日の手紙について 敬老の日に届くように、おじいちゃん、おばあちゃんへの手紙を出すことを計画しています。詳細は別紙手紙を参照ください。

★子ども夏祭りについて 暦の上では秋ですが、夏祭り委員の皆さんの思いを継いで、あえて「夏祭り」という言葉を使用します。出店やお土産は、委員の皆さんが準備して下さったものを活用させていただきます、子ども同士のやりとりやふれあいを大切にしながら、この日を楽しんでいきます。後日、映像を配信する予定なので、視聴方法などの詳細はまた別紙をお待ちください。

★延長保育開始時間について 標準時間保育のご家庭は18:00 短時間保育のご家庭は16:30 から延長保育の扱いとなります。(チケット制 250円/1時間) お迎えの時間の判断は、クラスにお子さんを迎えに行かれた時間にさせていただきますことをご了承ください(兄弟・姉妹の方は先にお迎えした方の時間)。お迎えの前に帰りの準備を済ませたい方は、お手数でもクラス職員に一声お掛けください。

大人が出る幕? 子どもの問題でしよう! お泊り会の夕食の片づけが終わった頃、AちゃんがB君に詰め寄って抗議していた。数人の子が集まり、不穏な雰囲気。知らんふりをして、聞き耳を立てていると、席取りの際にAがBにはじき出されたことが発端だったようだ。「何で、私をのけ者にしたの?」と聞こえた。「そんなことしてないよ」と取り合わないB、周囲を囲んでいた子達と遊び始める。それでも、Aは執拗に迫りかけ追求する。とうとうBが「わかった、悪かった、もうしない」と謝った。Aは涙ぐんで許した。男の子達にも笑顔が戻った。私と目が合った。「よくやった、話し合うことが大切だね」と言った。▼3人の弁護士によるシンポジウムで、一人の男性が、「自分の子がいじめにあつて、学校に訴えても、教育委員会に訴えても動かない、どうしたらいいか」と質問があつた。すると弁護士の一人が「国会議員や県会議員に訴え、県や国の教育機関を動かした方がいい」と言い出した。私は、オイ、オイ、チョットマテヨ!と思つた。子ども達の間で起こつたことに、国や県、議員が関わる問題か?さらに、権力を引き出して「お上のご沙汰」を仰ぐやり方に「何、言つてやがる」と性来の反骨心がムラムラと起こつた。▼いじめは、子どもの世界では昔からあつた。しかし、昔の子どもは開放的で、離合集散し、こちらのグループではじかれても、他のグループに加わつたり、いじめをする子がみんなから非難されたり、いじめられている子がいると、その子を守り、助ける子が現われた。ケンカをしても、翌日には何事もなかったように仲良く挨拶して、ケロッとしていた。しかし、今の子ども達は幼児期から、絡み合い、じゃれつき、取っ組みあつてケンカし、遊ぶ機会を奪われてしまった。大喧嘩して取っ組みあうことも、大声で言い合う事も多い。子どもの集団が狭く、固定化され、その小さく閉鎖的な世界からはざざざと、生きていけない。イジメがあると、イジメられている子を助けるどころか、自分がイジメられないように、無視するか、イジメに同調して身を守る陰湿な世界なのだ。片寄った偏差値でランク付けし、個性も特性も認めず、子ども達を狭い世界に押し込んでしまった結果が今のイジメだ。▼イジメが問題となると、当事者である子どもの姿がない。教育委員会や議員が中心になるが、何かおかしいと感じていた。子ども達とクラス・学校はどうなっているのか。子ども達が自分の問題として、自ら解決しない限りイジメはなくならない。イジメが人間の尊厳を傷つけ、死に至るまで追い込んでしまうことがあること、そして、一人ひとりがみんな尊重される豊かで尊い命であることを学ぶために、クラスで、学校で、一日中授業をつぶしてでも、徹底的に話し合い理解する貴重なチャンスである。授業より、人間として大切なことを学ぶチャンスである。大人が出てきて解決する問題ではない。もう一つ、子どもを開放し、自由に遊ぶ中で、多様な人やグループと関わり、人と関わり合うことが楽しいこと、自分も他人もかけがえのない存在であることを学んで欲しい。

理事長 浅田 精利